

フランス数学史 [原稿]

著者	小倉 金之助
発行年	1930
URL	http://id.nii.ac.jp/1275/00003468/

一七一五年 リイ十四世逝く、幼年の リイ十五世

即位すや オルアン公フィリップ 攝政となる。 リイ十四

世の末年は、^{従来の}虚礼虚儀にかゝて敬虔を装ふの

凡、朝廷の内外を支配したる、王の崩ずるに若くは

紐なる享樂思潮は起つて一世を風靡し、社会

の規則は廢中、朝廷の凡俗は亂れた。 ヴォルテール

を中心とせる 前期啓蒙文學が行はれた。 それは

一六八八年の各革命によつて イギリスはや、政體の自由

をり、不完全なながらも 舊弊の幾分は除かれ、^手穩

かに自由平等主義の發展の道が開けたのであつた。

フランスに於ては 中央集権の實を著がり、君主万能

主義の下に、貴族は壓迫される様になつた。 社会上の

差別は除かれなかつたから、^け束ねるはするゝ動の

増進は、^{ヴォルテール、}モンテスキュー等のイギリス

啓蒙精神の輸入唱へるに至つた。 ^{また}貴族的傾向の

王者万能を 標榜し、王権によつて 特權階級を抑

へることを知ると、彼等は貴族の ^{横暴}、僧侶の

破戒を諷刺嘲笑したが、君主権をいふ宗教そのもの

を攻撃しなかつた。

一方に於て窮迫せる 財政を緩和する手段として、オルアン公

フィリップは 今社を創立せしむ。一時在野界の人工的大膨

張を起し、振振と煽り得たが、^尚も多く反動

はやつて来た。在野界は大恐慌を來し、政府も大損害

ロンドン

七二。前

バグダッドの~~著~~著者 アルコワリズムは 九世紀に
注目すべき揮毫を持てる著述を書いた。

Al-Jehiz au' al munkabalah

この表題は アラビア人の使用せる 實際的 計算
技術の名称を表す。即ち *jeiz* は

munkabalah は

al-jeiz au' al munkabalah の外 *al-jehiz* と

ありたうである。

アラビヤ人は インドの 計算法 ~~を~~ 他面

に於て ギリシャの 数学書と学んだ。 實に アラビヤ

代表 ~~の~~ 誕生は、この二つの異なる付録の ~~連~~ 連合

の結果であつた。 ~~彼等は~~ 機械的な

計算 ~~と~~ 代々の特色は、迅速、~~機械~~ 機械的な

ある。

第一、代々は迅速に計算する。それは 言葉

による 計算に於ては 適用法を供給する。 運算に

際しては 算術 ~~の~~ 計算 ~~の~~ 除の ~~等~~ 等。その他は

当のものをを用いる。 計算は 一定の規則 または公

式の適用と一行は ~~小~~ 算術的基幹計算と同一の

式の結合と変形を主体とする。

10 × 20

を上げた。ユバールの才幹と勤勉は史上移る
る。一であり、フランスの近代産業は彼に
所望大きい。財政制を改革して中央集権化
し、王の権力を増した。彼は重商主義者であ
る。産業革命の工業革命の時代であり、農
業の改革。三、四の軍
隊を組織した。国立の工場を作り、三、四の軍
隊を組織した。特権を有する。他の織物工業
を改革した。送けた。

従来の家内制は廃止され、新に競争を
促した。

和の政治的な軍事的勢力を取り上げたユバールは、
工業、貿易、銀行業を改革して「ユバールの新
国」を築いた。一六八五年
ルイ十四世はナント勅令を頒布した。
ユバールは英、獨、米等を走らせた。フランスの
産業革命を促した。彼等の技術と工業をも
増進させた。

併し
国王から保護された利権は、歴代（指）を受け
ルイ十四世は諸侯者に金と土地を配分し、
ルーヴル宮を建てた。併しルーヴル宮は狭く
実用的な宮殿に限った。
(バートル)

諸研究を指導
することと主張し

ルイ十二世とフランソワ一世以来

絹、織紗工業、印刷業

等の工業生産が發展した。昔の封建的貴族が

次第に手放した土地を牛に入れたブルジョアジーの中から、資本

階級の勢力が来た。

十六世紀の中葉に、~~フランス~~十六世紀の後、宗教戦争が行

て、人民の力は破壊の力を用いて、国内は荒廃した。

特に農業は甚だしく攻勢を蒙り、諸工業の衰微甚しく、

財政は乱れた。

アンリ四世は農業を保護し、干渉政策によって大工業を

を起さしめた。製造業は立つた。宗教戦争からの打

撃から恢復し、近代の産業革命の原因がはたした。政府

が何等の利益をも保護し来た目的の貴族と軍人をも排除

した。これは十分には成功しなかった。

ルイ十三世（一六一〇）以後、財政機構は不秩序な

隔り、リニエリー（一六二四以来）財政的手腕を欠いた。

引き続く外戦は未曾有の戦費を要し、他方、

改鑄、増税等によって辛うじて切り付けたが、都市

農村には不平の声が高まり、所々叛乱も起った。

工業方面は金より直接干渉した方が、商業方面

には積極的であり、商事会社の設立促進に力を尽

した。対外的に

リニエリーはアンリ四世がユグノー徒によつて特権を奪う上げ、

宗教（ユグノー）戦争中、大いなる勢力を増した貴族の城を

破壊して、王権を高めた。

一五九八年ナントの勅令は新教徒に信仰の自由をあたへた。

ブルジョアの社会的地位は高まつて来た。

サレン

一六〇〇年頃からランブーイ侯爵夫人等の客間は、

宰相、大侯、貴女、ブルジョア文藝家等の天地であつた。相合

し相合じ、當時おほく相好む所と成せしフランス貴族の凡

俗の文化洗練されてフランス礼式を生んだ。淑女才媛は

俗の文化洗練を行つた。一六三五年リニエール文藝

祭一も計り、^{国王秘書}ヨニラールの詩集、ブルジョア文藝者の一環

を以てアカデミー・フランスを設立するに及び、^{国王秘書}国語院は

~~これ~~一さん~~の~~出来た。

師父マラン・メルセンヌ（一五八八—一六四八）——ラ・フレッシュ

授けられた。デカルトの同窓、ギリシャの多量の著書

を編輯し、^哲教義の研究を以て加へた。——は科学の

熱心な人であり、宗教に若くは異議を有する者を知りた

るばかりで、^{科学}は神への向上する為めに大なる便益を

供給するとの意見から、^{彼は}全欧州の大衆の

多量と通信した。メルセンヌの会合ニハ、オラシエリ

も在り、^前のデカルト、デザルグ、ロブルヴァル、ミドル

ジュ、パスカル父子等が在った。メルセンヌの取後

この会はル・パイヤー、ド・モンモル、テグノーの宛で

開かれ、一六六六年コルベールによつてアカデミー・デ

シアレス（^{科学}アカデミー）となつた。

ガッセン

建築の歴史

建築の歴史

建築の歴史
石・土・木
建築の歴史

一般の例

建築の歴史

計画
草稿

建築の歴史
木
草稿

古代は暫く除く。近代は文藝復興の建築様式と
相伴って発達した。十五世紀後半イタリーのアルベルチ、

ピエロ・デ・フランツエスミス、レオナルド・ダ・ヴィンチ、
ドイツのガスターの卒を怪、イタリー、ベルギー、オランダ

に於ける著者の研究に要する。リンドの国

ユリイよりリニエールの時代にかけて、交通道路は修
新改良され、運河の開鑿、橋梁の修築が大に

起った。

土木建築の歴史が研究される時が来

たのだ。デザグの書籍、近代の設計、建築の

著書が書かれた。これは約百五十年の間に完成した

木画の歴史の概観があらわになった。また

田舎の建築は現代の意味で、近代の建築の

の祖たるに値する。デカルト、フェルマー、パスカル等一

の学者は大に近代建築の歴史を著せざるはなかつた。

しかも計算の書籍の印刷本は一部のみ現存せぬ、後世

に用いた本は、見ることが止まる。デカルト

は力点をみせるべき書は何れも失われてた。この

史家等はデカルトの幾何学の著者で、そのは近代の

幾何学の力に、歴史をたぬめんとする。僅しデザグは

其表題からも既にその歴史を著し、その文意は、その

当時のアカデミー、フランスの美術史を著し、その

餘りも著した。失けられた書の中は、『暗

闇の溝』(de dans de ténébre)と題したもので、

あつた！

マザラレは不平
 を抱った女
 族子に最
 後の打撃
 を与えた。
 No.
 一六六二年
 マザラレが死んだ
 時は、為世に
 ん直つて王を勢
 力を争った女
 族は、おはや
 封建貴族で
 はあんなに
 廷臣に逆き
 なかった。

は
 財政を根柢せしめ、
 立ちぬび、
 マザラレ、
 フーケ
 財政を根柢せしめ、
 立ちぬび、
 マザラレ、
 フーケ
 財政を根柢せしめ、
 立ちぬび、
 マザラレ、
 フーケ

十七世紀に オランダの 商業は ヨーロッパに 覇を
 稱した。 アントワープの 商業は今や アムステルダムに移
 り行った。 漁業、

アムステルダム銀行 (一六〇九) は最も有名な 金銀振替
 香料、砂糖、 織物工業、 宝石工作、
 西印交商會 東印交商會

「オランダは 政治的に 精神的自由の 原理が勝利を占めた
 ヨーロッパの 最初の国であった。 この国では 商業が
 最も繁栄した。 多くの大企業があり、 ブルジョアジーは既に
 十六世紀に 政權を獲得した。

（デボリーン）

く、且つフランス人によって定まり
受け入れられた

デカルトの

仕方は理解されなかった。

その昔

は、ド・ボーヌ

が、オウレダのフランシスクス、フラン、シェー

ー

テンの注

文

が、

ホーハン、デ、ウィット、ス

ー

フッデ

フランスのローバール、フェルマー、パスカルは、

方法をつけ、時には、

フランスの諸大士は、

おろしあるものと受け入れた。デカルトの

が最も著しく、

代数学の理論を基礎づける上、幾何学的
研究が無効ではなかつた。たゞ、それのみで
は、~~原理~~の立ってゐる必要とする。その
再建者であつた。

一六三七年の「幾何学」(Géométrie) その入門とも見
做すべき Calcul de M. Descartes 等の研究から、
ピエール・ブートルは次の結論を導いた。

デカルトにあるは、「幾何学」は、幾何学的

代数学

モンテスキュー、
マルシェー
は、
ウオーター
は、
ルソー、
ホー

ア
ニ
ク
ロ
フ
ガ
ニ
ト
の
中
に
エ
、

ア
カ
テ
ニ
エ

に
1
7
も
1
9
り
た
あ
.
4
ド
ロ
ー
コ
2
4
ア
.
エ
イ
ウ
.
2

2
4
5
ハ
ー
ン
.
コ
2
ド
ー
.
Valney
Marmoncel,
Zay Hark
2

ド
ン
バ
ウ
は
み
う
ち

ケネー
カ
ケネー
カ
ケネー
カ

Académie des inscriptions et belles-lettres.

十八世紀の前半、古什人と近代人との間の大なる争ひが智識階級を二分した時、アカデミー、デ・アンスクリプシヨニカ、古什人、新しき人等は近代に左担した。ギョケレリか、けら水の

ローランド代表(一六九〇)には似合はれを要する。

のロピタルは一六九三年に御命書と云ふこと。

十八世紀の
初葉

No.

師父 アウブ・ガロアはコレージュ・ド・フランスのギリシヤ語の教授

であり、後、アカデミー・フランセーズのアカデミー・デ・シヤンスの令

息となった人があつた。御積金の~~入~~入者を防ぐ

ために、ロールと連合し、ド・ラ・イール~~入~~入の師父ゲイユ

アカデミー・
デ・シヤンスの令

グアリニオンとソーランであつた。その~~入~~入の~~入~~入は

(カントン、Bd. II, 五二七)

アレブ、五二七

（前）
せり

太陽王の~~建~~宮廷に集った国民の選良は、今や宮廷を

去つて、或はカ・フェーに、或はサロニに集まつた。

フロントネルの

は新學を世間的^{ア・ラ・モード}にした。

ガオルテールの~~（一七三四）~~（一七三四）まではイギリス思想の
一現^現的^的な。婦人も新學に興味を持った。

（前）

ガオルテール

メーヌ公~~公爵~~夫人の許へは、

フロントネル、

マレジュー

ド・ランベル夫人のサロニ

フロントネル

（近代~~人~~人の会合）

ド・タンサン夫人

フロントネル

（新學の興隆）

（前）
のサロニ

がオニテール (一七七二) は裁判の判決に破産論
を著して、「人生の多くは破産論の
内題に帰着せしめられた。」

倫

コンドルセーは論理なるが政治の七五五、

破産論の立脚から、自然の理から同様の精意を、

を有せられたりとの信を述べた。彼は社会の内に

一七八五年の投票による決定の破産論に就いての著である。

正しく判断せよとの破産論は、裁判官に何を、

不安なしに任せることが出来る。誤謬の破産論は、

社会の不安なしに任せることが出来る。誤謬の破産論は、

社会の不安なしに任せることが出来る。誤謬の破産論は、

先づ

提出

破産

破産論は不定金である。人は

之を数学の破産論と評す。

彼の論は、針の肉に

生物学者ブッフオン (一七〇七—一七八八) も

破産論

強に興味を有った。彼は一七七七年 倫理的算術

に因する強みを書いた。

投票

物理学者ボルダも一七八一年に選挙の法則を、

ラッセルも興味を有った。

その方は、破産論は不完全である。彼は、
何の破産論も、世に於いて、

それは、革命の前提であった。

この中

コンドルセーは才能なる科学の援助によつて、人間社会
の円満幸福の域に到達すべき不可能を信じて
疑はなかつた。 *Esquisse d'un tableau historique
des progrès de l'esprit humain (1794)*

彼の人は論はマヒサスによつて取された。

*コンドルセーは社会進化の十段階を認めた。

49 B-3

(8)-2)

階級社会の数学
関係

3
5
6 m

7
ラニス
数学史
原稿

昭和 年 月 日

東京理科大学
図書館

〒162 東京都新宿区神楽坂1丁目3番地
電話 東京 (260) 4 2 7 1 (代表)